

弘前学院の友情人形（俗に青い目の人形）を追跡して

高 屋 豪 瑩
成 田 マ ツ エ

一

昭和初期の上流社会は、西洋文化の導入によって上着をはじめショーツ等の下着にも改革が見られるようになった。しかしこの現象は、当時は一般庶民にまで及んでいなかった。そこに、多くの一般人の入学する学校に突如、盛装し帽子をかぶりさらにシャツやショーツをつけたアメリカ文化そのものの生活のなかで生きてきた姿の青い目の人形が、幼児達の遊びの仲間に加わった。

それは一九二七（昭和二）年、米国の民間団体が一万二千体余の人形を集め日本に贈ってきたことにある。日本では贈り主と親交のあった一民間人が、その人形を文部省に仲介することになったため、その後の人形がたどる状況にさまざまな予期せぬことが起こった。

まず文部省の指導の下で各府県の一部の小学校と幼稚園に人形が配られた。贈った側は、答礼を断っているが、わが国の文部省は小学生達に醸金を求め、そのお金をもとに高価な立派な人形を米国の州数に相当するだけ送っている。そして七〇年以上の歳月が経過した。この間に両国

との間に戦争があり、お互いに贈られた人形の取り扱いに、それぞれのお国柄の反映した行為がなされていた。

今回は、上陸した人形が文部省から青森県に配布された際に、文部省から送られてきた文面と、県が人形を配る際に前もって用意した取り扱いについての文書の内容が著しく似ていること、また配布された人形があるキリスト教主義幼稚園で扱われた経緯とを概観する。そして残された人形の、今後に危惧される問題点についても付記した。

二

寄贈された友情人形（人形と略）は当時、米国で行われていた排日運動に抵抗し、敗れた親日家宣教師ギューリックが、米国の排日行為によって日本人に与えた影響への謝罪を込め、将来に期待し日本の子供たち人形を贈ることを発案し、今後の交流を願って仲間と一緒に日本に贈っている。一九一二年にギューリックと渋沢栄一は京都で開かれた帰一協会で出会ったのが最初である。事前の一九二六（大正一五年九月一五

日)年、ギューリックから洪沢栄一への手紙によると一〇万体を目標に、そのうち一万体も集まれば成功とみなし、二万五千体から五万体のときは大成功と考えている。しかし、実際に集まった人形は大成功にはるかに及ばなかった。大正一五年一月一九日ギューリックの手紙には、人形の高さ一五吋、価格三弗の“Mamma Voice Doll”に衣服とメッセージを付けると、どのくらいの数がおくれるかは判らないが判り次第おしえますとある。

人形は、乗船券とパスポート等を持参しニューヨークの港から大正一五年一二月一八日前橋丸に八一三体乗せられて横浜に上陸したことに始まる。その後ニューヨークかサンフランシスコから別々の船に乗せられ人形は、次のように、アングル丸に七八九体、モンロー丸に一、一〇九体、ライン丸に一、二〇九体、メドソル丸に一、四七三體、鳥羽丸に九五〇体、リスボン丸に一、六四九體、プレジデント・ビヤス号に二、一〇九體、リンカーン丸に八〇五體、サイベリア丸に一四體乗せられて横浜か神戸のいずれかの港に着いた。これら集まった一万二千体余は、米国の東部と東北部、カリフォルニアの二〇州および地区からである。

人形の到着直前に洪沢栄一を会長とした日本国際児童親善会が結成されている。しかし、記録によると結成されたその日に廃止されている。そして事務処理の全てを文部省がすることになった。文部省から配当された人形数は、前出のように次から次に入港してくる船に搭載された人形の数がばらばらであったことから、最終確定数が決まるのが、ひな祭り直前であった。配布順位は前もって文部省から次のような指導がなされていた。

1. 師範学校付属小学校及幼稚園
2. 県庁所在地の公立小学校及幼稚園
3. 主要都市の公立小学校及幼稚園
4. 外国人の多数居住する地方、またその出入り多き土地(例・市場、遊園地、温泉場、避暑避寒地)の公立小学校及幼稚園

5. その他は知事の適当と認めた公立小学校及幼稚園
の順に一学校一幼稚園に一個である。これを、算出するのに文部省年報大正一五年度の国内の小学校数は、二五、四九〇校、幼稚園は一、〇六六園、計二六、五五六校とある。この数から二・四校に一校の割で配布されることになる。そして返礼無用としていたギューリックの意志とは反対に、文部省は洪沢の提案した答礼人形を送るために人形送付を受けた小学校や幼稚園に対し、受入れ校の決定した後その校園の女児数を二六九万前後と推定し、答礼人形作成経費を算出した。文部省の世話で一個の身の丈二尺五寸の人形を三五〇円で五〇個作るために、短期間に逆に児童一人当り一銭の値を割だし、残りを友染め縮緬の着物などに使うお金として醸金させている。

三

ギューリックは事前に頻回の交渉を洪沢栄一と行なっているが、準備が整ったなかで急遽、仲介を文部省に乗り換えた。このことが、各府県の幼稚園と小学校に配布されている事実を前出の資料からうかがえる。すでにこの資料は、日本国際児童親善会が結成された折の討議資料のな

かに文部省側から提出されていた。さらに短期間に答礼人形作成のための醸金算出がなされる際に、この各県別配布数を利用した形跡が読み取れる事実の記載を渋沢資料に残している。このような逆転劇は、当時の計画を聞き及んだ駐米大使が米国の地で直接にギューリックと交渉して、ギューリックから日本外務省へと形式的依頼の行われていたことに始まる。この依頼事実を楯にとった外務省は、渋沢を中心とした国内配布は文部省を経由するという逆転劇となった。そして敗戦、これらの配布されていた人形の一部は一九七三（昭和四八）年に初めて公表され、現在までに三〇〇体が再出している。

それに対し、ほぼ各州に一体のわりで米国に送った五八体の答礼人形はどうであったかが問われる。なかに数奇な運命をたどった人形もあるようだが、埼玉の平和資料館の資料によると一九九八（平成一〇）年現在、四〇体が確認されている。ミス青森はニューヨーク州ロチェスター市の科学博物館にあり、一九五九（昭和五四）年に日本から親善訪問団が訪ねている。詳細は、既報のものを参考にして頂きたい。

四

最近、県学務部長発信「昭和二（一九二七）年四月一六日付ケ」の「米国世界児童親善会ヨリ本邦児童へ人形寄贈ニ関スル件」（青教第一九五号、本稿末尾に挙げる）と青森県内に「人形ヲ送付スベキ校園」（二二〇校）の資料（後掲の付表参照、以後青森県資料と略す）にこの資料を簡略化した「法奥沢村（現・十和田湖町）の法庶収第一、八四七

号の一」をつけて法奥・藤沢両小学校長殿宛の書類が、十和田湖町役場の古い公文書から見つかった。

今回の青森県十和田湖町で見つかった青森県資料は、前文が文部省普通学務局長の発信文を土台に書かれた文章であることがわかった。前文のみは、山口県で見つかった文の一部も似ていることは武田栄子の本にある内容と著しく似ていたので、二番目のものと思われる。しかし、詳細な配布先を知らせる類の付表は、青森県資料が最初の掘り出しといえるようである。しかし、受け取った人形の配布先を県が決めないで、くじで決めたところもあるという記事が他の県で見られていることを付記したい。

五

私どもは、上記の青森県資料を入手する前から、自分の目で何らかの形で公表され現存する「友情人形」を、まず弘前市内の小学校や幼稚園からはじめ、青森県全体に現存するものを確かめていた。確認した八体の人形を今回、公表された青森県資料と対比したところ幼稚園などは、当時一園ありそのうち五園が弘前市にあること。さらに現在、市内の弘前学院二体と養生一体の二園に計三体あることになる。確認出来なかったのは、弘前学院所屬となった若葉幼稚園の一体であった。残り六体はその後の隣接の市町村の合併で、小学校は青柳、致遠、千年の三校。弘前市以外では竹館、島守、育成の各小学校にあり、計八体となる。しかし、今回の私どもが確認するまでは、現所有者は必要書類としてのパ

私どもは今回の検証に、次ぎのような手続きを踏んだ。人形の識別に必要な事項を「青い目の人形にはじまる人形交流」と「Collectors Encyclopedia of Dolls (1986)」とから特徴をまず抽出した。この抽出項目について、今回捜し当てた八体について調べた結果、コンボジション・ドールであり、特に背中のスタンプ・インクで捺印されたマダム・ヘンドレン・216が共通事項であった。このことは、AVERILL (アベリール) 社 (製造期間：一九二〇—一九二七年) 製であることを今回初めて明らかにした。またこれらのヘンドレンは現在、日本全体で三〇〇体ある友情人形の半分を占めていることを、人形の家の若林啓子のアンケート調査が明らかにしている。

一九二七（昭和二）年五月六日、弘前市教育会主催で友情人形の歓迎会が行われた。迎えた人形は、一一二体である。このなかから青森県資料と対比して内訳をみると、弘前市に一二体、南郡に三三体、中郡に一
九体、北郡に二六体、西郡に二二体となる。

青森県資料のうち南部地区の一〇八体のうち一体が、津軽地区の一〇二体の七体が現存し、とくに五体が当時の軍都弘前市にあったことになる。また、キリスト教弾圧を受けたと思われる二体がそのなかに含まれる。

七

私も最近、見聞した幼稚園のことをまず述べたい。今でも大切にしている養生幼稚園（一九〇六年…明治三九から現在）の人形は、白いレースで縁取られたシュミーズとショーツ、靴下を着用していた。また贈られた時に持ってきた服が何枚もあり、季節にあわせて着替えることができるようになっていた。また児能花幼稚園（一九〇九年…明治四二から戦後まもなく女子師範に吸収されるまで）は禅宗の泉光院が経営していた。当時から関係してきた泉光院の娘だった柿崎治子（現在七八歳）は六歳（一九二七年…昭和二）の時に友情人形を見ていた。以後、保姆として閑園まで働き、その人形と一緒にだつたと直接、病床にある本人から最近聞いた。また現在五一歳の住職は一九五二（昭和二七）年まで人形があつたと言っていた。しかし、今はどこにあるのか判らないという。また、弘前市立幼稚園（一九〇二年…明治三五—一九九六年…平成八）

は、一九二八（昭和三）年に第一大成小学校とともに大火に見舞われ校舎が全焼している。この時に焼失したものと思われる。愛光（一九〇七年・明治四〇—一九五八年・昭和二三）と若葉（一八九九年・明治三二—一九五八年・昭和二三）の二幼稚園は、合併して弘前学院聖愛幼稚園となり、一九九五（平成七）年に休園となった。一体づつ贈られているが、これまでの私の調査で戦後は、聖愛幼稚園に一体しかない。詳細については後述する。少なくとも戦後も四園に人形は現存していた。

弘前学院（聖愛幼稚園）の友情人形は弘前学院八〇年記念誌、一〇〇年史、一一〇年記念誌、陸奥新報の記事（一九九八年・平成九年一月七日）、さらに弘前教育史の各記載内容に、多少のくいちがひとなつて残されている。だがなぜか全国リストに載せられずに今にいたっている。昔はミッション・スクールであつた弘前学院の人形は、クリスチャン・スクール（キリスト教主義学校）に戦中に転変させられ、御真影を奉載し奉安殿を造るなど八紘一宇の精神を強要されたなかでの、前出の小学校や幼稚園とは違う一つの物語があつた。

一九二七（昭和二）年、弘前市に到着時、弘前市教育会主催の歓迎会が開かれ、そこに若葉幼稚園長であるラッセル校長以下、教・職員や生徒が招待され、全員で米国歌を斉唱した。その際に贈られた一二二体のなかに、エリザベス・ハットンが含まれていた。ハットンはその後、五月に愛光幼稚園で歓迎会が行われた（学院本部写真所蔵）。また若葉幼稚園でも行われているはずだが、その証拠となる写真が探せないでいる。この手がかりとして、藤田恒男牧師の園長時代である一九四二（昭和一七）年のひな祭り時の集合写真がある。ハットンと並んだ人形部分

だけを拡大した写真を工藤（宮本）ミ子に見てもらった。二体のうち一体はつばの広い帽子をかぶった細面の人形であるが、これが若葉幼稚園に贈られた人形であると確認された。

「弘前学院八〇年記念誌」のなかに掲載されているが、一九二〇（大正九）年から一九七五（昭和五〇）年まで、幼稚園に教師として働いた工藤ミ子（現在九六歳）から敢えて回想を聞くことにした。

ミ子は一九〇三年鍛冶町に生まれ、第一回愛光幼稚園の卒園生。その当時、オルガンに魅せられ幼稚園で働きたいと思つた。父を早く亡くしたが、兄が聖公会に属し、この関係で米国に七年間学び帰国して東京の貿易会社に勤めた。縁あつて、その兄は、青山学院で教鞭を執るようになり、その中で藤田恒男も学んでいるはず。この兄の貿易会社時代にミ子は、最初にジェームス・バラから洗礼を受けた仏教信者だった一人が、日本最初の官立幼稚園教育をおこなった東京女子師範学校の教員養成所に入り資格を収得している。当時の幼稚園教育は地域住民の意志にまかされていた。その後、ミ子は弘前に帰り小学校教員に比べ希望者がほとんどなく身分保障もないが、県では数少ない有資格者の保姆として、ドレーバー先生の紹介で一九二〇（大正九）年から若葉幼稚園で働くことになった。当時の宣教師は自からゴミを拾い、時間に厳しかったが、自立の範を示して下さり多くのことを学んだと言う。

戦局が進むにつれ、キリスト教学校に対する町の人々の眼は冷たく、男手のないところでは不意打ちを受け、土足のまま入りこんで来た町内の顔役連から、口汚く非国民呼ばわりをされることもあつた。そのなかで、戦争をくぐり抜け二幼稚園が統合されて聖愛幼稚園にいたる過程な

どを伺った。

また、某市長の子供が若葉幼稚園に在籍時に、市長駕倒の垂れ幕が幼稚園に掲げられたこともある。その当時、園長に対処を求めたが受け流されてしまったと。またひな祭りを普段はキリスト教関係者は行なわないでいたなかで、戦時中におひな様を弘前教会婦人会の人が醸金して購入している。そのようにして行われたひな祭りに友情人形も戦争中は飾られていたが、戦局の激しくなったころから敵国人形となり、外国の人形を焼きすてしまえと言われる状況になったので、こっそり人形をミ子は疎開させたと。疎開先が軍関係の一つの集合場所であり礼拝を欠かさなかった弘前教会であった。そこに住む園長でもある藤田恒男牧師のもとに預けたと、最近述べていた。

この人形は、一九六九（昭和四四）年から一九七九（昭和五四）年間に藤田家の娘の手中に在ったことを、弘前教会に転会してくる前の教会で友情人形と遊んだことのある某教会員や数人の証言がある。しかし現在、弘前教会に養生幼稚園で見た類の服が一着あったがそれも見当らない。これまでの聞き取りや証言、記録から現在、弘前学院所蔵の人形はハットンといえる。

これまで戦後の弘前学院（聖愛幼稚園）の人形の話しは、数の点で混乱していたことに気付いた。そこで九六歳のミ子に相談した。記憶が定かでないので三〇歳ほど若いかつての同僚、三浦（白取）まさに細かなことは訊ねて欲しいと紹介された。三浦まささにさっそく話す機会を作ってもらった。三浦まさは一九四七―一九六六（昭和二二年四月から四一年三月）年まで在職していた。宣教師の示唆と援助で一九五四―一九五

六（昭和二九年四月から三二年三月）年まで東洋英和女学院短期大学で学び幼稚園教師の資格をとっている。宣教師から、過去にすでに園児の排泄時の処理を指導してもらっていたとか。例えば、おしっこやうんこをした後のふきとる方法など。

三浦まさの勤務した頃、「友情人形」？と思われるのは二体あったという。おもちゃのなかった時代に使われていた人形でハットンも子どもたちの遊び相手に加わっていたという。ハットンの髪の毛が生えている部分はふたのように、容易に開くので（髪の毛の生えている頭上の部分とはかみあわせているのではずれるようだ）、そこから子どもたちはどのようにして目が動くのかと好奇心で指を入れてのぞきこんでいたという。また、ハットンは今よりもつと茶色の髪が長くたくさん生えていたようだととも言う。三浦まさが聖愛幼稚園を退職する前にいつのまにか頭が開き、壊れた人形は子どもたちの前から消えていた。

その後、三浦まさにもう一体と思われる人形の写真を見てもらった。即座にクリスマスに使った人形（幼子・イエス様）だといった。この人形の背中に「ROYAL」の会社名が浮き彫りにされている（後述）。髪の毛は押し型になって髪は彩色されていない。目は動かないが、声が出るようになっていた。一九八〇（昭和五五）年から聖愛幼稚園の休園時まで勤務していた清野光子の話しでもやはりこの人形は、クリスマス誕生劇でイエスの役を果たすために飼う葉桶用かごに寝かされ、休園になる直前のクリスマス一九九四（平成六）年まで使ったという。二人とも顔を拭いてやったこと、くるんである白い布を洗った話しなどを懐かしそうに話してくれた。だが今はどこに行ったかわからないという。

現在、弘前学院に保存されている人形は、清野光子によると、聖愛幼稚園が下瓦ケ町から山崎に引っ越した時にもってきた、使われそうもない捨ててもよさそうな物が入っていた箱に、布にくるめて物置に放置されていたとか。人形を見ると背中に「U.S.A」の青色のスタンプの捺印文字、背中にはなきぶえのあと（おじぎをさせるとママーとか、はつきりではないが声らしき音を発していたという）、寝せると目をつぶるなどから外国からきた珍しい人形だと思ったそう。一九八五（昭和六〇）年頃、弘前学院百年史編集委員だった岩淵玲子より「友情人形」の問い合わせが幼稚園にあった。当時の写真などと照合してみたが、「友情人形」としての確証は出来なかったが、類似人形ではないかと考えている。確証がないままこの時、清野光子のはからいですでにシャツとショーツを含めてフリルのついたエンジ色のドレス、白いレースでふちどった揃いの帽子と靴などを新調した人形として百年史に登場し、一九八七（昭和六二）年の聖愛幼稚園の園児募集のパンフレットにも使用された。最近、私もはこの人形を見せてもらい前出の事項を確認した。さらに背中にあるスタンプ・インクの捺印文字等を接写した写真を武田英子に送り、改めて友情人形として確認してもらい、今では「友情人形」の一体として全国のリストに加えられることになった。現在はケースに収められ弘前学院本部の一室に飾られている。

前述の工藤ミ子に見てもらった写真は、以下のような経過をたどっ

た。幼稚園の休園前、廃棄寸前に人形をもらい受けた現在の所有者から人形を見せてもらい、背中に「ROYAL」とあるのを確認した。その写真を撮った。写真を横浜人形の家の学芸員に送ったが、その返事は、現存する三〇〇体の中で製造元が「ROYAL」社の人形は一体もないこと。しかし、一九一三年から一九三〇年にニューヨークにあった玩具会社で作られたものということであった。この鑑定依頼時には、前述のようなつばのある帽子をかぶった細面の顔の人形は藤田牧師のところからどこに行ったか不明である。

そこで次ぎのような推測をした。明治時代から戦前は幼稚園の園長を女性の宣教師が兼務するなど、個人でも人形を持ち込んでいる。八〇年記念誌を読むと一九三〇（昭和五）年当時、宣教師宅に招かれた生徒が人形のことを述べている。弘前学院にあるはずのもう一体の人形であるROYALは、一九二七（昭和二）年に贈られた「友情人形」と決めたくなる。しかし、一九四二（昭和一七）年の若葉幼稚園のひな祭りの写真にこの人形も写っていた。ママーとは泣かないがその装置がある。また、青い目の人形には、自分の家にある人形を使って仲間に加えてもよかった点なども含め、一九二七年のひな祭りに間に合うようにと日本に贈られた中にあってもおかしくはないと考えた。が、ミ子に前述のような一九四二（昭和一七）年の写真を見てもらって、一九二〇（大正九）年に勤めた時からあったという。この証言から「友情人形」ではないと言える。宣教師個人の私物であったとおもわれる。

ではこれまで述べてきた一九四二（昭和一七）年に縁のある帽子をかぶった二体の人形のうちの一体は、一九二七（昭和二）年の歓迎会の写

真からハットンと言えるが、もう一体のつばの広い帽子をかぶった細面の一体が、今は見当たらない。それが一九四三（昭和一八）年に疎開したままの人形である。また ROYAL は一九二〇（大正時代）年以前からあったことと、三浦まさのいう戦後、二体あったという青い目の西洋人形は、一九二七（昭和二）年に贈られたハットンと大正時代からあった ROYAL であって、他に今は行くえの判らない一体があったことが確認できた。

九

これまでの幼稚園と人形との関係の背景を考えてみたい。一八九七（明治三〇）年メリー・クリスチン・アレキサンダー（アレキサンダー夫人）は、失火の事故で焼けどをして亡くなっている。その遺体は最勝院に埋葬され大理石の墓碑がある（写真あり）。戦時中に倒され、今は頭の部分が欠けてはいるものの、弘前学院一〇〇年記念事業の一貫のなかで立てられた。今はその管理がなされていないことが調査のなかで判明した。R. B. Alexander と一八九三年に結婚し長男ジョージを生む。弘前に赴任して子供の養育に苦慮したアレキサンダー夫人は、弘前市で初めての子守学校を創設している。彼女の葬式で集まったお金を基金にアレキサンダー・キンダーガーデン「若葉幼稚園」が一八九八（明治三一）年に開園し、愛光幼稚園は一九〇七（明治四〇）年の開園となった。両幼稚園は、宣教師の経営から一九四〇（昭和一五）年に弘前教会所属に代わった。高柳伊三郎牧師が最初の園長になったが、監督阿部義宗の

個人的意思が強くはたらいて、一九四一（昭和一六）年に辞めさせられ、阿部の意図で藤田恒男牧師が福島から弘前教会に着任し、園長となったさらに所属は、事情は判らないが一九五一（昭和二六）年から弘前学院へと変更された。

一〇

マスコミに乗らない ROYAL 社の人形は、七〇余年の歳月を過ごした友情人形と、それ以前から宣教師と幼稚園とともに過ごしてきた別の話題を、戦時中を通じてイエスの役を果たしてきたなかで、何かの問題を知っているかも知れない。しかし語ってはくれない。ハットンと昭和二年から存在している。しかし昭和一七年の写真にあるつばの広い帽子をかぶった一体は今はない。

一一

青森県資料の配布先の校名は現在、不明のものがあり統廃合や校名が変更になった可能性がある。そこで一九九八（平成一〇）年度の電話帳に記載されている小学校名とを照合して確認したところ、当時の校名が残っていた学校は、約六五％であった。この資料をもとにさらなる調査を推進していきたい。

また一九七七（昭和五二）年発行の弘前教育史に千葉寿雄は、人形は青柳、船沢（富栄）小学校の二校にあったと。それには撮影時は不明だ

が、白いエプロンを着けた船沢小の四人の子どもが人形を一体ずつ抱いている写真が載っている。しかし、今は船沢小学校に所蔵されていないという。この写真の人形が気になるが、今のところ決め手がない。一九九二（平成四）年一月一九日に弘前市立博物館で致遠小の佐藤忠蔵の音頭で「おらほの自慢展」に前出の三小学校の人形が公開展示され、外にも二体あることを示したマスコミにも取り上げられた。この時、前出の弘前教育史にあった船沢小の人形は展示されていない。

香川県のように、一〇二体が配布され、配布先も渋沢資料館で見つかった資料と照合した数であるが、断片的にしかその実態が判明していない。このことは、青森県資料と類似文書があっても、くじで配布先を決めたという意見があるように、その詳細な配布先の表はないかもしれない。

一九八九（平成元）年の九月、米国に九二体が里帰りした。その際、米国での展示期間中に巧みな手段を使って、展示場から二体が消えていた。その二体の所属は、福賀小（山口）と築城小（福岡）に贈られてきた人形であった。しかし、三年後にギュリック三世の計いで二校にそれぞれ別に二体づつが送られて決着がついたという。このことがきっかけになって横浜の人形の家に展示されている友情人形にレプリカと明記された人形が展示されるようになったとか。

これまでの社会過当競争と飽食時代をおう歌してきた人々にとつては、汚くなった人形を放置し経過したことで忘れ去られたこともあると。また文部省は地方における展覧会または歓迎会等の情景を撮影した写真帳を作り、これを米国世界児童親善会に送る計画をしていたこと、また米

国児童からの通信文（人形の携行する）及び学校幼稚園児童幼児から送られた童謡または感謝状の写しを後日の教育の参考資料となるとして各写し二通を県庁に送っている。

人形送付後に会津地方や中国東北部、朝鮮で行なった相反する事項に連鎖した鯉ヶ沢校事件（東奥日報・一九四三年・昭和十八年二月七日）「仮面の親善人形」後の波紋が拡がって、出会う人形自身が歴史を語る事例として消失することがないよう願うのみである。

（敬称は略させて頂きました）

謝辞…励ましと示唆を与えて頂いた大藤啓矩、武田英子氏に、またハットンと関係資料の選出に協力頂いた葛原トク子、石岡肇子さんに、ロイヤルの撮影を快諾頂いた高橋孝氏に深謝します。

参考資料（最小限に止めました）

1. 法奥沢村役場 法座収第一八四七号ノ一・一九二七（昭和二年）五月二八日（一九九八年・伊藤一允氏提供）
2. 武田栄子…人形たちの懸け橋、小学館、一九九八、七三頁（山口県学務部長）。
3. 是沢博昭…渋沢研究五（一九九二）、同六（一九九三）、同八（一九九五）
4. 吉村道男…人形使節から人間使節、外交資料館報七卷四〇―五三、一九九四（平成六）年
5. 東奥日報…仮面の親善人形、一九四三（昭和一八）年二月七日

6. 赤崎まき子…人形たちの愛は海をこえて、エイ・ワークス、一九九六

7. 会津日報…不可解な青い目の人形、一九二七年一月一二日

8. 時事日報…真珠貝―人形の真相、一九二七年三月一三日

9. 岩淵玲子…青い目の人形の発見、提供没原稿

10. THE COLLECTORS ENCYCLOPEDIA OF DOLLS (1986) CROWN PUB
N.Y

11. 陸奥新報…県内で七体確認(弘前聖愛高社会部が調査)、平成九年一
二月七日

12. 石井雅大「青い目の人形」社会科研究三〇号、一九九二年

13. 洪沢栄一遺稿集(三八巻)昭和三十六年

14. 学第六五四三号 二葉幼稚園長殿 米国世界児童親善会より寄贈せら
れたる人形の答札に関する件 新潟県学務部長(九月一〇日まで佐々木
県視学宛納入)、一九二七年八月一八日

追記…青教第四〇四号昭和二年八月二日青森県学務部長より藤坂小学校長
宛に「本邦児童ヨリ人形ヲ米國世界児童親善會ニ寄贈ニ関スル件」
の文書が見つかりました。

(こうや・こうよう 弘前大学医学部教授)

(なりた・まつえ 弘前学院紫寮)

青教第一九五號

昭和二年四月十六日
青森縣學務部長

各市町村長殿

米國世界児童親善會ヨリ本邦児童へ人形寄贈ニ関スル件
日米親善ノ目的ヲ以テ米國ニ於ケル世界児童親善會ノ計畫ニ基キ米國
児童ヨリ本邦児童ヘ多数ノ人形ヲ寄贈シ来リ一先文部省ニテ之ヲ受領
シ同省ヨリ全國各府縣ニ配當相成リタル處本縣ニ二百二十個配當相成
リタルヲ以テ別幣ノ通り貴市町村内小學校幼稚園ニ各一個宛送付可致
ニ付別記事項御承知ノ上可然御取計相成度候
追テ現品ハ青森市ニ於ケル歡迎會終了後送付可致候条御承知相成度
申添事

記

一、人形受領ノ上ハ同封送付ニ係ル受領証(英文)ニ所要ノ記入ヲナ
シ學校、幼稚園(都府縣郡市町村學校幼稚園名ヲ明記スルコト)ヨ
リ直接寄贈者ニ送付スルト共ニ其ノ校園児童幼児ヨリ寄贈者ニ對シ
感謝狀ヲ必ズ送ルコト

感謝狀ハ和文ニテモ宜シク又児童幼児自作ノ童謡繪畫手工品寫眞
最寄地方ノ風景畫繪葉書等ヲ送ラル、コトハ寄贈者ノ最モ喜ブ所ト
思料セラル、ニ付可然取計フコト

二、人形ハ其ノ校園ニ保存シ雛祭等ノ諸行事ヲ為ス場合ニハ陳列シテ
講話ノ資料トスルコト

三、人形ガ日本ヘ到着(第一便)ト同時ニ日本國際児童親善會主催ニ
テ二月二十五日ヨリ三日間東京市ニ於テ人形展覽會ヲ三月三日日本
青年會館ニ於テ歡迎會ヲ開催セル由當廳ニ於テハ縣市教育會主催ニ
テ別紙ノ通人形展覽會ヲ兼ネテ歡迎會ヲ開催スル予定ナリ人形學校
幼稚園ニ到着ノ際ハ児童ニ對シ國際情況日米親善等ニ関スル簡明ニ
訓話ヲナスコト

四、人形ノ現品ハ五月五日以後取纏メ市町村役場ニ送致スヘキニ付之
ヲ各學校幼稚園ニ配布スルニ當リ人形ノ所持スル特別旅行免狀米國
児童ノ手紙、着替ノ衣裳等紛失セラル様特ニ注意セラレタル尚「人
形寄贈趣旨書」「ギューリシック博士ヨリノ人形ヲ受ケ取ラル、方
へ」(邦訳)「人形ヲ迎フル歌」及「歐文人形受領書」ヲ別紙送付候
条各指定校園ヘ配布セラレタキコト

五、右ノ趣旨ハ學藝會父兄會其ノ他適當ノ機會ニ於テ適宜ノ方法ニ依
リ児童父兄又ハ一般觀覽者ニ周知セシムルコト

六、文部省ニ於テハ地方ニ於ケル展覽會又ハ歡迎會等ノ情況ヲ撮影セ
ル寫眞帖ヲ作り之ヲ米國世界児童親善會ニ送付致ス計畫ヲ有スル由
ナリ

七、米國児童ヨリノ通信文(人形ノ携行スル)及學校幼稚園児童幼児
ヨリ送レル童謡又ハ感謝狀寫ハ他日教育ノ參考史料ト可致ニ付各寫
二通當廳ニ送付セラル、コト(用紙美濃野紙トスルコト)

付表 青森県内「人形ヲ送付スベキ校園」(二二〇校)

(参考資料1をもとに修正)

東津軽郡	油川尋常高等小学校 濱館尋常高等小学校 大野尋常高等小学校 瀧内尋常高等小学校 筒井尋常高等小学校 平館尋常高等小学校 荒川尋常高等小学校 新城尋常高等小学校 浅虫尋常高等小学校 横内尋常高等小学校 高田尋常小学校 小湊尋常高等小学校 廣瀬尋常高等小学校 宮田尋常高等小学校 山口尋常高等小学校 奥内尋常高等小学校 小橋尋常高等小学校 今別尋常高等小学校 後潟尋常高等小学校 西田沢尋常高等小学校 清水川尋常高等小学校 諏訪沢尋常小学校 奥平部尋常高等小学校 蟹田尋常高等小学校 宇鉄尋常高等小学校 計二十五校	青森市	男子附属 女子附属 深浦尋常高等小学校 葭町尋常高等小学校 長嶋尋常小学校 新町尋常小学校 橋本尋常小学校 古川尋常小学校 沖館尋常小学校 女子師範附属幼稚園 私立青森幼稚園 日本キリスト幼稚園 青森保育園 聖マリア遊技會 計十五校	西津軽郡	西海尋常高等小学校 深浦尋常高等小学校 向陽尋常高等小学校 森田尋常高等小学校 柏尋常高等小学校 豊川尋常高等小学校 岩崎尋常高等小学校 修道尋常高等小学校 舞戸尋常高等小学校 第一鳴沢尋常小学校 柴田 林 第一車力 越水 赤石 川除 十三 南金沢 中村 館岡 育成 水元 計二十二校	北津軽郡	五所川原男子 五所川原女子 小阿弥尋常高等小学校 梅沢尋常高等小学校 板柳尋常高等小学校 胡桃館尋常高等小学校 鶴田尋常高等小学校 鶴ヶ丘尋常高等小学校 羽野木沢尋常高等小学校 飯詰尋常高等小学校 嘉瀬尋常高等小学校 喜良市尋常高等小学校 金木第一 武田尋常高等小学校 中里尋常高等小学校 小泊尋常高等小学校 沿川第一 榮 沖飯詰 野里 吹畑 相内 毘沙門 薄市 脇元 金木第二 計二十六校	中津軽郡	玉城 隆親 富田 進修 外崎 鳥井野 岳陽 新和 高杉 自得 紙漣沢 國吉 致遠 大浦 千年 明誠 就將 富榮 赤柳 計十九校
------	--	-----	--	------	--	------	---	------	--

弘前市	朝陽尋常小学校 第一大成尋常小学校 第二大成尋常小学校 弘前高等小学校 弘前私立若葉幼稚園 市立弘前幼稚園 弘前私立若葉幼稚園 和徳尋常小学校 城西尋常小学校 時敏 私立愛光幼稚園 私立兒能花幼稚園 私立養生幼稚園 計十二校	南津軽郡 黒石尋常高等小学校 黒石女子尋常高等小学校 黒石幼稚園 野澤尋常高等小学校 浪岡尋常高等小学校 六郷尋常高等小学校 大槲尋常高等小学校 女鹿沢尋常高等小学校 育英尋常小学校 本郷尋常小学校
南津軽郡	藤崎尋常高等小学校 中郷尋常高等小学校 東英尋常小学校 大鰐尋常高等小学校 竹館尋常高等小学校 長峰 金田 柏木町 新屋 前田屋敷 西中野目 町居 日沼 尾上尋常高等小学校 浅瀬石尋常高等小学校 石川尋常高等小学校 碓ヶ関 小和森 大坊 第二畑岡 若松 畑中 牡丹代 計三十三校	
上北郡	横浜尋常高等小学校 城内尋常高等小学校 新町尋常高等小学校 保戸沢尋常高等小学校 天間館尋常高等小学校 榎林尋常高等小学校 七戸尋常高等小学校 上野尋常高等小学校 洞内尋常高等小学校 三本木尋常高等小学校 法奥尋常高等小学校 藤坂尋常高等小学校 六戸尋常高等小学校 木内々尋常高等小学校 百石尋常高等小学校 三澤尋常高等小学校 澤田尋常高等小学校 米田尋常高等小学校 柏尋常高等小学校 計十九校	
下北郡	田名部尋常高等小学校 大湊尋常高等小学校 川内尋常高等小学校 脇野沢尋常高等小学校 大畑尋常高等小学校 大間尋常高等小学校 奥戸尋常高等小学校 佐井尋常高等小学校 宿野部尋常高等小学校 下風呂尋常高等小学校 易國間尋常高等小学校 奥内 計十二校	三戸郡 八戸高等小学校 八戸尋常小学校 長者尋常小学校 三戸尋常高等小学校 五戸尋常高等小学校 小中野尋常高等小学校 湊尋常高等小学校 白銀尋常高等小学校 三條尋常高等小学校 名久井尋常高等小学校 田子尋常高等小学校
三戸郡	七崎尋常高等小学校 是川尋常高等小学校 赤保内 福田 梅内 斗内 蛇沼 上郷 下郷 轟木 又重 西越 浅水 田代 明治 新井田 下長苗代 八戸幼稚園 鯉吉 島守 市野沢 上市川 戸来 大向 地引 鮫 計三十七校	

(十和田湖町役場文書)



写真1：友情人形であるハットン（右、愛光）と現在行方不明（左、若葉）の人形：昭和17年藤田恒男牧師（メソジスト教会、弘前市元寺町）が若葉、愛光両幼稚園園長時代のひな祭り撮影の集合写真の一部



写真2：Royal 社製（米国 1913-1930）人形：イエスの役目を閉園まではたしてきた。背部に「ROYAL」と浮かぶ字が見える。女性宣教師が、1927年以前に持ち運んだものと思われる。



写真3：愛光幼稚園に送られたハットン（友情人形：米国 1920-1927）。コンポジション・ドルであり、背中に Genuine Madame Hendren Doll 216 made in U.S.A とスタンプ・インクで捺印されている。その背後に丸い蓋があるのが伺える。この穴からママーと鳴く仕掛けがある。